

# 12月4日から10日は「人権週間」

そもそも人権ってなんだろう。それは人間が共に暮らしていくうえで、自分らしく生きることを認められる権利であり、誰もが生まれつき持っているもの。この考えは、世界が認めたひとつの宣言から広まり、はぐくまれました。

## 世界人権宣言と人権週間

20世紀、二度にわたる世界大戦により、多くの命が奪われました。その悲劇を繰り返してはならないとの反省から1948年12月10日、第3回国連総会において「世界人権宣言」が採択され、さらに第5回総会では、毎年12月10日を「人権デー」と決めました。日本では、毎年12月10日を最終日とする一週間を「人権週間」とし、人権尊重を広く呼び掛けています。

**「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」**

これは世界人権宣言の第1条です。「尊厳」とは、言い換えれば、「かけがえのないさ」や「大切さ」といったことでしょう。つまり、「人間は誰もがみな生まれつ

き自由で、かけがえのない存在であり、わけへだてなく扱われるべきである」とうたわれていくわけですね。

## 人権尊重社会を実現するために

しかし、現在わたしたちの身近には、同和問題、障がい者、感染症患者とその関係者等々、さまざまな人権問題があります。先人たちが掲げた崇高な理念を受け継ぎ、人権が尊重される社会を実現するために、わたしたちには未来に向けてそれらの問題を解消していく責任があるといえるでしょう。

八女市では、すべての人の人権が守られる「かけがえのない命が輝くまちづくり」を目標に、人権についての教育・啓発に取り組んでいます。毎年この時期に実施している「スマイルフェスタ八女」や街頭啓発等もその一

環です。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、3密を避けての各展示や朗読放送等を行います。世界中がコロナ禍にあるときだからこそ、あらためて一人一人が人権について見つめなおす節目の期間としたいと思います。

## 「自分らしく」に思いを馳せて

人権とは、まるで空気のようなもの。見えないその存在に守られているからこそ、わたしたちの生活は成り立っています。人権週間はそのことを思い出させてくれる、大切な一週間です。

皆さんもこの機会に、自分自身の好きなところ、身近な人との間で違いがあるからこそ良いと思えるところ等、普段はあまり意識しないような部分に思いを巡らせる、そんな時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

## みんなに届け人権の花

《人権の花運動》この運動は、福岡県の人権の花であるひまわりを、子どもたちが協力して育てることで命の大切さを実感し、豊かな心や優しさ、思いやりの心を育むことを目的として行っています。今年度は三河小学校、黒木小学校、矢部清流学園の子どもたちが取り組み、暑い日も欠かさず水やりなどのお世話を続けました。ひまわりは子どもたちの頑張りにこたえるように大きく成長し、たくさんの種が集まりました。集めた種は、心の込められた手書きのメッセージを添えて風船につけ飛ばしました。空高く舞上がった風船は遠く大分県佐伯市まで届き、拾った人からお便りをいただくなど、交流が生まれています。



風船を飛ばす矢部清流学園の子どもたち



人権・同和教育課では、市立学校の児童・生徒から人権作文を募集しました。

## 「差別を無くすために」

矢部清流学園6年 野中夏羽なつば

「あの車、○○○ナンバーだ。今○○○でコロナが増えているのに、どうして来るんだろう。コロナが多い所から来たら矢部にもコロナが広がってしまうから来ないでほしい。」

私は、新型コロナウイルス感染症が流行して学校が休みだったところ、車のナンバーを見て、そのようなことを思っていました。そのときはそう思うことが偏見であり、差別につながるようになるのだと私は気付いていませんでした。

学校が再開して三ヶ月が経ったところ、清流会(※)の会長から、「シトラスリボン」という黄緑色のリボンが配られました。初めは何のことか分からず、「シトラスリボンプロジェクトって何だろう」と思っていました。調べてみると新型コロナウイルスに感染した人やその家族、医療関係者などに対する差別や偏見を無くそうとした愛媛の人たちがつくったプロジェクトだということが分かりました。そのとき、私ははっとしました。コロナウイルスに感染した人をさげるだけでなく、そのまわりの家族やその人がいる県の人たちもコロナウイルスの感染者

という目で見てしまい、さげようとする気持ちは、私が初めに○○○ナンバーの人たちに持った気持ちと同じだということに気付いたので。

これまでの私は、「偏見や差別をすることは絶対にいけない、まして私が差別をするなんて絶対ない」と思っていました。ところが、そう思っているながらも知らないうちに差別につながることをしてしまっていたのです。そのことから差別をすることは、絶対にいけないことだと分かっているにも無意識にしまわうこと、差別は誰でもしてしまう恐れがあることを実感しました。だから私は、このようなことが起こらないように自分ができることを考えました。

私は今、ランドセルにシトラスリボンをつけて登校しています。それを見る度に、自分がしてしまったことを思い出すとともに、差別や偏見について考え、何が差別につながるのかを考えるきっかけとしています。

「○○○ナンバーだ・・・」前、このように思ってしまったけれど、今はそう思うことはありません。なぜならコロナ

ウイルスはマスクをして、手洗いをしっかり行い、三密をさければ感染を防ぐことができると思ったからです。コロナウイルスのことを正しく知った上で、私たちが感染対策を行えば、感染せず、差別をすることもなくなるはずですよ。

コロナウイルスで、毎年こうらしいの「矢部まつり」は中止になってしまいました。矢部には紅葉や千本桜など多くの魅力があります。矢部の魅力をたくさんの人に伝えてほしいと思っています。私は、いろいろな情報にまどわされず、正しく知って正しい判断をして行動していきける人になりたいと思います。

野中さんは、学校を挙げて取り組んでいる「シトラスリボンプロジェクト」をきっかけに、これまでの自分の行動を振り返ることができています。また、正しく知り、正しく行動しようという意欲や、地域を誇りに思う気持ちが頼もしく感じられ、私たち大人も、学ぶべきところが多くあることに気付かされます。新型コロナウイルスにより、不自由な生活が続いています。一人一人が協力して、誰もが幸せに暮らせる社会を築いていきましょう。

(※)中学校の生徒会に当たる組織。5年生から9年生までの児童・生徒で構成)

## 人権のことでお困りの人は、人権擁護委員に相談ください

人権擁護委員は、法務大臣から委嘱された民間のボランティアです。法務局と連携し人権啓発活動や相談活動、被害者の救済等を行っており、八女市でも19人が活動しています。人権についてお悩みの人は、人権擁護委員にご相談ください。相談は無料で、相談の秘密は固く守られます。

- ▽みんなの人権110番  
☎0570・0003・110
- ▽子どもの人権110番  
☎0120・007・110
- ▽女性の人権ホットライン  
☎0570・070・810
- ※時間 平日8時30分〜17時15分

### 【お詫びと訂正】

広報八女11月1日号「なぜなぜ人権」で取材したラクマン・アクバーさんの名前の綴り「Rafman Akbarさん」は「Rahman Akbarさん」の誤りです。お詫びして訂正します。



《シトラスリボン運動》愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。